

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 17 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381345

研究課題名(和文) 発達障害・学習困難生徒学生の認知的個性を活かす特別支援の高大接続方策に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Measures of Continuum of Special Needs Support Making Use of the Cognitive Individuality of Students with Developmental Disorders or Learning Difficulties

研究代表者

松村 暢隆 (MATSUMURA, Nobutaka)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：70157353

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：発達障害・学習困難生徒学生への特別支援の高大接続・連携の在り方に関して、多方面の視点から基礎的調査、資料収集、プログラム実施を行った。アメリカの2E教育の理念・実践の最近の動向の情報整理や、日本で大学から発達障害のある高校生に対する大学進学移行支援プログラムや、支援システムの構築を行った。生徒の才能面を含む認知的個性のニーズがより明らかになり、より有効な方策の具体的な展開を図った。成果の一部は、公開シンポジウム等で、2E教育を総合テーマとして公表された。

研究成果の概要(英文)： We investigated the measures of the continuum of special needs support between high school and university for the students with developmental disorders or learning difficulties from various perspectives. We have recognized the recent trends of twice-exceptional education in the U.S., practiced a new program supporting the transition of high-school students with learning difficulties, and built a system for supporting high-school students from a university. More effective ways of supporting students were developed, making their needs clearer. Some of our products were presented in an open symposium under the theme of 2E education.

研究分野：発達障害の特別支援教育(2E教育)

キーワード：発達障害 学習困難 2E教育 才能 認知的個性 高大接続・連携

1. 研究開始当初の背景

アメリカでは、発達障害と優れた才能を併せもつ「2Eの(二重に特別な)」児童生徒の教育学・教育心理学的実証研究が近年増えつつある。公教育で確立された「才能教育」の理念・方法を背景として、少数の発達障害生徒の並外れた才能を伸ばす狭義の「2E教育」だけでなく、すべての発達障害生徒の才能(得意・興味)を活かそうとする広義の2E教育が実践されてきた。いっぽう日本では、発達障害の障害面に関する支援・研究の豊富さに比べて、その才能面に関する教育学・心理学的研究は、研究領域としても形成されなかった。しかしようやく最近、その真摯な研究と教育実践の重要性が認識・議論され始めてきた。本研究は、大学での発達障害学生修学支援と高校での発達障害・学習困難生徒の学習・コミュニケーション支援の実践研究を連携させ、特別支援教育、発達・教育・臨床心理学の学際的領域として、特別支援教育の高大接続の新しいあり方を検討・提示しようとした。

2. 研究の目的

高校および大学で、発達障害や学習困難のある生徒学生の得意・興味等の才能面を見出して活かせる学習・コミュニケーション支援方法と、可能で望ましい高大接続・連携のあり方を、調査・実践を通じて検討する。

(1) 個人のもつ障害や才能も含めて多様な認知発達の特徴を、「認知的個性」という包括的な概念で捉え直し、生徒・学生の得意や興味、苦手、学習スタイル等を総合した認知的個性を多面的に評価する方策を開発する。

(2) 才能面を活かす効果的な学習方略を探り、高校および大学で個性化された学習・コミュニケーション支援を行い、学習支援と生活・社会情緒的支援が一体となるべきデータを示す。

(3) 高校で大学進学も視野に入れて、才能面を活かして苦手を補い、自己理解を促し自己尊重を高めるような、高大接続可能な学習支援およびキャリア教育の方策のプロトタイプを提示する。

3. 研究の方法

発達障害・学習困難生徒学生への特別支援の高大接続・連携の在り方に関して、多方面の視点から基礎的調査、資料収集、プログラム実施を行った。それらの結果を分析・検討しながら、より具体的な展開を図った。

(1) 発達障害と才能を併せもつ2E生徒への支援について、カナダの公立中等学校の特別プログラム・通級指導教室等への訪問調査を行った。日本の公立学校でも実施の可能性のある指導・学習方法について検討を加えた。

2E教育に関してアメリカの最近の動向に基づき、概念整理を行った。そして2E生徒の特別なニーズも考慮して、得意を引き出し才能を伸ばす指導・支援を視野に入れた、大学進学も視野に入れて発達障害児童の才能を活かすために、Y市公立小学校の通級指導教室で、サマースクールの拡充学習等のプログラムを試みた。

(2) 高等学校における発達障害やその周辺の生徒の理解や指導支援、さらには、学校としての特別支援教育の推進に関する現状や、高大接続に係る現状を把握するために、国公立高校数校を訪問し、施設設備の把握や、特別支援教育推進の基本的な考え等も含め、特別支援教育コーディネーターの教師を対象に、面談による意識調査を行った。生徒の意識調査について、対象高校の生徒向けのゼミナール「障害科学(共に生きる)」を開講し(希望者に対して1回)その活動の中での発言から把握した。ゼミは2時間で構成され、講義とグループ別討論から構成された。ゼミの後に成果を把握するための質問紙調査を実施した。

(3) 発達障害のある中・高校生を対象に大学体験プログラム「チャレンジ・カレッジ」を実施した。また、先輩の体験談で、高校での学習方法や受験勉強の仕方、大学選定のポイント等に関する講義を情報発信するための情報収集・整理を行った。いっぽう、新入生に対して、大学進学に必要な情報、高校で受けた進路指導、保護者としてどのようなサポートを行ったかについての情報を集約した。また、新入生と4年生の発達障害学生に対して、高校から大学への移行に関するインタビューを行い、進路決定までの道筋や多様な勉強法の紹介、将来への展望等の情報収集・整理を行った。

(4) 徳島県内の高等学校で、当該高等学校の特別支援教育・教育相談担当の教員と連携しながら、支援ニーズのある生徒へのキャリア教育・教育相談を行う支援システムの構築を行った。研究分担者が教育相談等に関わるだけでなく、支援システムの構築の一環として、鳴門教育大学の大学院生を当該高等学校に実習の一環として派遣し支援を行った。そうやって構築された支援システムを校内に周知・定着するための方策を検討した。また鳴門教育大学や他大学の研究協力者と協議し、大学教員の発達障害学生への支援に関する意識調査を進め、高等学校との具体的な連携の在り方について探索した。さらに、発達障害者支援センターと連携し、思春期の自己理解を進めるプログラムを実施し、キャリア教育への発展性について検討した。

4. 研究成果

発達障害・学習困難生徒学生への特別支援

の高大接続・連携の在り方に関して、研究総体的に相互参照できる、多方面の視点から結果が得られた。成果の一部は、日本 LD 学会大会自主シンポジウムおよび日本 LD 学会公開シンポジウムで、2E 教育を総合テーマとして情報発信された。

(1) 発達障害と才能を併せもつ 2E 生徒への支援について、カナダの公立中等学校の特別プログラム・通級指導教室等への訪問調査で得られた資料を検討して、日本の公立学校でも実施可能な指導・学習方法に関する示唆が得られた。また 2E 教育に関するアメリカの最近の動向に基づいた概念整理の記述を提示した。そして発達障害児童の才能を活かすために、Y 市公立小学校の通級指導教室で、サマースクールの拡充学習等のプログラムを試みたところ、児童の興味・関心を高める効果を得た。今後は、中学校での狭義の 2E 通級指導教室から、高大との連携のあり方を探ることが課題となる。

(2) 国公立高校の特別支援教育コーディネーターの教師を対象に、面談による意識調査を行ったところ、高校における発達障害やその周辺の生徒の理解や指導支援や、学校としての特別支援教育推進の基本的な考え、および高大接続に係る施設設備の現状を把握できた。いっぽう、生徒の意識調査について、対象高校の生徒向けのゼミナール「障害科学（共に生きる）」を開講し、その活動中での発言から把握した。ゼミの後に成果を把握するための質問紙調査を実施した結果、発達障害についての理解が深まり、改めて障害について考えるきっかけとなった等の内省や、今後も発達障害についての関心の大切さ、などの意識を把握できた。

(3) 発達障害のある中・高校生を対象に大学体験プログラム「チャレンジ・カレッジ」を実施した。参加生徒から、「得意な分野を念頭に進路を決めるとより良い大学生活を送れることがわかった」「発達障害のある先輩からの話が参考になった」「興味のある科目を念頭に進路を決め、不得意科目の対処法を見つける大切さを知った」等の感想を得た。発達障害の特性に沿った体験型プログラムの有効性を確認することができた。また、先輩の体験談で、高校での学習方法や受験勉強の仕方、大学選定のポイント等に関する講義を DVD にまとめた。いっぽう、新入生に対して、大学進学に必要な情報、高校で受けた進路指導、保護者としてどのようなサポートを行ったかについての情報を集約し、チャレンジ・カレッジのプログラムとともに冊子にしてまとめた。また、新入生と 4 年生の発達障害学生に対して、高校から大学への移行に関するインタビューを行い、進路決定までの道筋や多様な勉強法の紹介、将来への展望等を DVD としてまとめた。今後は高校で支援を

受けた新入生の数を増やして一般的な情報としてまとめ上げるために、各新年度の入学生に関しても同様のインタビューを行う。また在學生へのインタビューに関して、学部ごとの特徴を踏まえた情報をまとめていくために、さらにデータを収集し、検討を進める。

(4) 徳島県内の高等学校で、当該高校の特別支援教育・教育相談担当の教員と連携して、研究分担者および鳴門教育大学の大学院生が教育相談・支援等に加わりながら、支援ニーズのある生徒へのキャリア教育・教育相談を行う支援システムの構築が試行的に進められ、生徒のニーズに応じる体制の要因が次第に明らかになった。また県内の他大学の研究協力者と協議し、大学教員の発達障害学生への支援に関する意識調査を進め、高校との具体的な連携の在り方について、ノウハウを蓄積できた。さらに、発達障害者支援センターと連携し、思春期の自己理解を進めるプログラムを実施し、キャリア教育への発展への展望を得た。県内の高校 1 校で試行した形なので、今後は、より幅広い高校に広げて考える必要があり、開発した自己理解プログラムの実証的な研究と、高校の通級指導教室への普及に向けてさらに検討する。

以上のような研究の進展、成果を踏まえて、研究者の関連論文を集結して本科研の報告書冊子を作成した（松村暢隆編集『発達障害のある生徒に対する 2E 教育の理念による支援：大学進学を視野に入れた高大連携の実践』2017）。今後、発達障害のある児童生徒学生に対して、広義の 2E 教育の理念の下、学習および社会情緒的支援を連携させることに関する基礎・実践的研究が継承発展される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 22 件）

松村暢隆、アメリカの 2E 教育の新たな枠組 - 隠された才能・障害ニーズの識別と支援 -、関西大学文学論集、査読無、66 巻 3 号、2016、143 - 171

松村暢隆、2E の生徒の才能を活かす支援 - 大学進学を視野に入れて -、LD 研究、査読無、25 巻 1 号、2016、39 - 48

柘植雅義（以下 4 名）、筑波大学附属駒場高校における大学教員と博士課程の学生らによるゼミ「障害科学 - 共に生きる -」の試み、筑波大学附属大塚特別支援学校研究紀要、査読無、第 60 集、2016、141 - 146

和田秀美、小倉正義、小中移行期における児童の学校適応感に関する研究 - 中学校生活への期待感・不安感に着目して -、教育実践学論集、査読有、17 巻、2016、

Yamauchi, H., Ogura, M. (以下2名), The effects of maternal rearing attitudes and depression on compulsive-like behavior in children: The mediating role of children's emotional traits, *Psychology*, 査読有, 7, 2016, 133-144

松村暢隆、発達障害生徒の才能を活かす大学進学支援の2E教育 - バンクーバー公立中等学校の GOLD プログラム -、関西大学文学論集、査読無、65巻1号、2015、51 - 82

西村優紀美、大学における発達障害の学生に対するキャリア教育とキャリア支援、障害者問題研究、査読無、43巻2号、2015、91 - 98

西村優紀美、青年期の発達障害とその支援、そだちの科学、査読無、24号、2015、82 - 86

西村優紀美、障害児・者の教育保障の取り組みとその課題、社会福祉研究、査読無、123号、2015、28 - 29

西村優紀美、発達障がいのある学生の包括的支援のあり方、CAMPUS HEALTH、査読有、52巻2号、2015、40 - 45

幸田有史、華園力、小倉正義、発達障害で二次障害を負った子への支援 - EMDRの役割 - 日本 EMDR 学会第9回学術大会におけるシンポジウムを振り返って -、EMDR 研究、査読無、7巻1号、2015、3 - 15

小倉正義、特別支援教育と才能教育の接点、教育と医学、査読無、63巻3号、2015、13-19

Kondo, T., Takahashi, T. & Shirasawa, M., Recent progress and future challenges in disability student services in Japan, *Journal of Postsecondary Education and Disability*, 査読有, 2015, 28(4), 421-431

高橋知音、高等教育機関での発達障害学生支援における課題、CAMPUS HEALTH、査読有、52巻2号、2015、21 - 26

高橋知音、高橋美保、発達障害のある大学生への「合理的配慮」とは何か - エビデンスに基づいた配慮を実現するために -、教育心理学年報、査読無、54号、2015、227 - 235

松村暢隆、発達障害のあるすべての児童生徒の2E教育とは、実践障害児教育、査読無、42巻1号、2014、10 - 15

松村暢隆、発達障害のある子どもの才能を活かす、指導と評価、査読無、60巻5号、2014、4 - 5

西村優紀美、大学における発達障害を持つ学生の支援と課題、臨床心理学、査読無、14巻4号、2014、500 - 509

西村優紀美、発達障害のある大学生の就職、発達教育、査読無、2014年4月号、2014、28 - 29

森裕子、福元理英、岡田香織、小倉正義 (以下2名)、学習支援を通じた学習困難児の心理的变化の検討 - 児童・保護者・担任教師による評価を通して -、学校心理学研究、査読有、14巻1号、2014、45 - 57

② 小倉正義、発達障害の子どもたちと認知的個性、アスペハート、査読無、13巻2号、2014、134 - 138

② 高橋知音、大学における発達障害のある学生への支援 - 現状と課題 -、リハビリテーション研究、査読無、159号、2014、25 - 30

〔学会発表〕(計 27件)

松村暢隆、2E教育の動向、意義と可能性 (招待講演) 2016年度日本LD学会公開シンポジウム - 発達障害のある児童生徒に対する2E教育の理念による支援 -、2016年12月23日、関西大学(大阪)

西村優紀美、発達障害のある生徒に対する大学体験プログラム『チャレンジ・カレッジ』の試み (招待講演) 2016年度日本LD学会公開シンポジウム - 発達障害のある児童生徒に対する2E教育の理念による支援 -、2016年12月23日、関西大学(大阪)

小倉正義、発達障害中高生の進路決定に必要な自己理解を高める支援 (招待講演) 2016年度日本LD学会公開シンポジウム - 発達障害のある児童生徒に対する2E教育の理念による支援 -、2016年12月23日、関西大学(大阪)

松村暢隆、2E教育の理念・方法の新しい枠組み (自主シンポジウム JB3・2E教育の理念による特別支援の先進的取り組みの基盤) 日本LD学会第25回大会、2016年11月9日、パシフィコ横浜(神奈川)

西村優紀美、大学進学を目指す生徒に対する情報提供の在り方 (自主シンポジウム JB3・2E教育の理念による特別支援の先進的取り組みの基盤) 日本LD学会第25回大会、2016年11月9日、パシフィコ横浜(神奈川)

小倉正義、高大連携の中での発達障害生徒への支援体制づくり (自主シンポジウム JB3・2E教育の理念による特別支援の先進的取り組みの基盤) 日本LD学会第25回大会、2016年11月9日、パシフィコ横浜(神奈川)

小倉正義 (以下2名)、学習に困難さを抱える子どもたちへの支援の試み - 相談ニーズに着目して -、第5回日本小児診療多職種研究会、2016年7月30日、パシフィコ横浜(神奈川)

西村優紀美 (以下2名)、発達障害のある高校生に対する大学体験プログラムに関する一考察、全国高等教育障害学生支援協議会第2回大会、2016年6月25日、東京大学(東京)

西村優紀美、高等学校卒業後の進路をど

う考えるか - 富山大学の合理的配慮の取り組み - (招待講演) 横浜市自閉症協会総会記念講演、2016年6月11日、ウィリング横浜(神奈川)

西村優紀美、個に応じた支援(招待講演) 特別支援教育士資格認定協会第3回S.E.N.S 養成セミナー、2016年6月4日、ベルサール神保町(東京)

松村暢隆、2E(二重の特別支援)教育とは? - 発達障害のある子どもの才能を活かす支援 - (招待講演) 第2回福山発達支援セミナー、2015年11月28日、福山市立大学(広島)

西村優紀美、発達障害特性のある大学生への支援(招待講演) 平成27年度発達障害者支援センター県民セミナー、2015年11月14日、群馬県社会福祉総合センター(群馬)

松村暢隆、2Eの生徒の才能を活かす支援 - 大学進学を視野に入れて - (教育講演6)(招待講演) 日本LD学会第24回大会、2015年10月12日、福岡国際会議場(福岡)

小倉正義(以下3名)、ペアレント・メンター活動の今後の展開 - 親と地域でつながる支援を目指して - (自主シンポジウム)、日本LD学会第24回大会、2015年10月12日、福岡国際会議場(福岡)

田中淳司、柘植雅義、センター校と地域の高等学校との授業を通じた連携の試み - 出前授業「ユニバーサルデザイン」(学校設定科目)の検証 -、日本LD学会第24回大会、2015年10月11日、福岡国際会議場(福岡)

西村優紀美、発達障害のある子ども・青年への支援(招待講演) 平成27年度児童思春期精神保健専門研修会、2015年7月2日、富山県心の健康センター(富山)

Takezawa, T., Haraguchi, H., Yoshikawa, T., Ogura, M. (以下2名), Development of a parent mentor training program in Japan, The International Meeting for Autism Research, 2015年5月14日, Grand America Hotel (Salt Lake City, Utah, U.S.A.)

松村暢隆、特別なニーズのある生徒・学生の才能を活かす教育(招待講演) 世界自閉症啓発デーin 横浜 - 高等学校と大学連携・接続の支援 -、2015年3月28日、関内ホール(神奈川)

西村優紀美、大学における支援の実際 - 自己理解を促す支援の在り方 - (招待講演) 世界自閉症啓発デーin 横浜、2015年3月28日、関内ホール(神奈川)

西村優紀美、発達障がいのある高校生への支援(招待講演) 不登校・発達障がい理解啓発セミナー、2014年11月29日、星槎国際高等学校富山学習センター(富山)

② 堀江まゆみ、小倉正義(以下2名)、罪に

問われた障害のある青年に対するネットワーク型支援システムの構築と予防的アプローチ(自主シンポジウム) 日本教育心理学会第56回総会、2014年11月7日、神戸国際会議場(兵庫)

② 西村優紀美、学びにくさの背景にあるもの - 高機能発達障がいの理解を手がかりに - (招待講演) 出雲高校 PTA 研修会、2014年11月1日、島根県立出雲高等学校(島根)

③ 井上とも子、小倉正義、共生社会を目指したインクルーシブ教育の実践と課題(ミニ・シンポジウム) 日本生徒指導学会第15回鳴門大会、2014年10月4日、鳴門教育大学(徳島)

④ Nomura K., Okada K., Shibata Y., Mori Y., Ogura M. (以下2名), Study on indicators for extracting children at high risk for developmental disorders in childhood, 16th World Congress of Psychiatry, 2014年9月15日、IFEMA (Madrid, Spain)

⑤ 松村暢隆、認知的個性を活かす学習(招待講演) 香川大学附属坂出中学校平成26年度教育研究発表会、2014年6月13日、香川大学附属坂出中学校(香川)

⑥ 西村優紀美、大学入学前から学修・就職までのシームレス支援の実際(招待講演) 地域科学研究会情報センター主催セミナー、2014年5月29日、明治薬科大学(東京)

⑦ 西村優紀美、発達障害者支援の今 - 高等教育機関における支援の現状から - (招待講演) 平成26年度石川県特別支援教育研究会、2014年5月20日、いしかわ総合スポーツセンター(石川)

[図書](計11件)

柘植雅義(以下3名)(編)、アース教育新社、全国の特色ある30校の実践事例集「通級による指導」編、2016、240

西村優紀美、水野薫、金子書房、発達障害のある大学生への支援(高橋知音編) 実習場面での支援、2016、62 - 72

西村優紀美、金剛出版、下山晴彦他(編) 必携発達障害支援ハンドブック(下山晴彦他編) 大学における学生の支援と課題、2016、343 - 348

小倉正義、明石書店、福元理英(編)、心の発達支援シリーズ3・小学生 - 学習が気になる子どもを支える - (小倉正義他監) 学習のつまずきを支える、2016、88 - 142

高橋知音(編) 金子書房、発達障害のある大学生への支援、2016、110

MATSUMURA, N., Information Age Publishing (Charlotte, NC), Gifted Education in Asia: Problems and Prospects. Virtual gifted education in Japan (D. Y. Dai & C. C. Kuo, Eds.), 2015, 121-145

柘植雅義、木舩憲幸、放送大学教育振興会、特別支援教育総論、2015、230

小倉正義、岩崎学術出版社、心理臨床における多職種との連携と協働 - つなぎ手としての心理士を目指して - (本城秀次監) 発達障がい児への支援 - 地域支援におけるネットワークの構築 -、2015、59 - 70

柘植雅義(編)、金子書房、ユニバーサルデザインの視点を活かした指導と学級づくり、2014、98

西村優紀美、金子書房、発達障害のある人の大学進学(高橋知音編)、進学を目指す高校生への情報提供(2) - 富山大学の取り組み -、2014、56 - 75

高橋知音(編)、金子書房、発達障害のある人の大学進学、2014、202

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松村 暢隆 (MATSUMURA, Nobutaka)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：70157353

(2) 研究分担者

柘植 雅義 (TSUGE, Masayoshi)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授

研究者番号：20271497

西村 優紀美 (NISHIMURA, Yukimi)

富山大学・保健管理センター・准教授

研究者番号：80272897

小倉 正義 (OGURA, Masayoshi)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：50508520

(3) 連携研究者

高橋 知音 (TAKAHASHI, Tomone)

信州大学・学術研究院教育学系・教授

研究者番号：20291388